

松島むうの 晴れの ときどき ななびより

「もし、自分がこの町に暮らすとしたら」という目線ど
旅をする。

みなさんは旅に出る時、念頭に置いているコトや
ポリシーはありますか？ 未だに常に「もし、自分が
この町に暮らすとしたら」という意識を大切にし
ています。私たちにとっては観光地でも、どこに
住む人にとったら生活の場。世もまたタラリ。
このコトをネカメで学んだできごとが、今回のお話し。



<p>「ナンションは どんどん 上がりまくリッ!!」</p> <p>何かもが新鮮な私たち</p> <p>次は温泉かー!!</p>	<p>ガジュマル</p> <p>何!? この巨大で 変な植はクッ!!</p> <p>まがが</p>	<p>海へほんまに 青りんやーッ</p> <p>トビウオ 飛んでるーッ</p> <p>友</p> <p>にこた海しか知らない私たち</p>	<p>22年前(当時20歳) 人生初、家族旅行以外の 友人との ふたり旅</p> <p>鹿島 種子島 屋久島</p> <p>行き先は屋久島</p>
<p>その時 はじめに知りました</p> <p>お風呂に 入りに行く人が いるというコトを</p> <p>銭湯文化のなご町で 育った私たち</p> <p>家じやない トコロに 毎日 お風呂に 入りに行く人が いるというコトを</p>	<p>この島 集落の 人たちの 家の お風呂 同然ッ!!</p> <p>馬鹿 じゃないッ!!</p>	<p>ココは この島 集落の 人たちの 家の お風呂 同然ッ!!</p>	<p>この湯船 中腰サナヒ 肩まじ つかれへんって おもしろーい</p> <p>あはは!!</p>
<p>22年経った今、自分にとって それがとても心地いのです</p> <p>秋サナヒ 目まじ ほんまになー 困るわー</p> <p>放生の地元のあばちゃん</p>	<p>その視点で旅をする 見せる景色がかわりました</p> <p>「もし自分が この町に 暮らすと したら」という 目線で 私が旅をするようになったのは</p>	<p>とても 取すがしくミ</p> <p>ただただ 自分たちとしての 非日常に 酔っていたコトが</p>	<p>として 観光地としか 見ていなさ その土地で 生活している人が いるコトに 気づけず</p>

松島むう
(まつとりむう)

イラストエッセイスト。今までに訪れた日本の島は98島。ユースホステルやゲストハウスに100軒以上宿泊。著書に「日本てくてくゲストハウスめぐり」(ダイヤモンド社)、『島旅ひとり旅』(小学館)、『トカラ列島 秘境さんぽ』(西日本出版社)等。最新刊は初監修本『初めてのひとり旅』(樫出版社)。http://muu-m.com/



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.18
まとめてダウンロード



Sustainable Tourism P20



インタビュー P02
コムアイ(水曜日のカンパネラ)
「迷惑をかける勇気」が、
旅をもっと楽しくする。



教えて! 旅GIRL P22



Youth Hostel Pick up P08
世界自然遺産 屋久島
ここにしかない自然と文化を育む
島とゲストの架け橋を目指して
屋久島ユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより P23



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
今後、見られなくなる可能性あり
今すぐ行きたい世界の絶景
■近い将来、遺跡と化するであろう「死に行く町」
■コロナ禍な街並みを、クラシックカーが駆け抜ける
■世界最大のサンゴ礁群に忍び寄る危機的状況
■ここ50年で形が激変! 死海の今
■100年で1km以上も! 衝撃的なアルプスの氷河の後退
■遺跡背後の山を登り、絶景の展望台へ
■世界から抜粋! おもしろユースホステル

発行所: 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島眞
〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
印刷・製本: サンメッセ株式会社
※本誌の情報は2019年9月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけになる前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。